

事業番号	2	分野名	保護	予算区分	県単
事業名	松くい虫防除事業				
担当者名	野澤 彰夫		事業期間	昭和53年度～	

1 松くい虫の発生活長調査

目的

発生するマツノマダラカミキリ成虫数を調査し、環境条件との相関から発生時期を推定する。

方法

マツノマダラカミキリ幼虫が付着している被害木をおおむね1mに玉切ったもの(1年目材)及び前年調査した材(2年目材)を場内の屋外に設置した網室の中に入れ、2009年5月から8月まで発生する成虫数を調査した。

結果概要

2009年5月から8月までのマツノマダラカミキリ成虫の発生数(1年目材と2年目材の合計)は表-1のとおりであった。1年目材の発生(6/17～8/7)数は62、2年目材の発生(6/17～7/10)数は30(同材の1年目発生数161)であった。

また、有効積算温量算出のための場内観測気象データについても報告した。

表-1 マツノマダラカミキリ羽化脱出数(1・2年目材)

脱出月	脱 出 日						計
	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~31	
5	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	5	11	8	24
7	9	10	22	15	8	2	66
8	1	1	0	0	0	0	2
計							92

2 薬剤防除安全確認調査

目的

松くい虫の薬剤航空防除の実施に伴う、昆虫相に及ぼす影響について調査を行う。

方法

昆虫相を調査するため、誘引トラップ法によるカミキリムシの調査を実施した。佐野市唐沢山において薬剤散布区に5基、無散布区に5基の誘引器をおおむね50m以上の間隔で地上高約4mの位置に設置した。誘引器はサンケイ化学製黒色トラップを使用し、マダラコール(ピネン、エタノール各50ml)を用い、捕獲されたカミキリムシを約2週間間隔で回収した。

結果概要

2009年6月29日～8月28日で合計5回の調査を行った結果、26種のカミキリムシが確認された。マツノマダラカミキリ、クロカミキリ等の捕獲数は表-2のとおりである。

表-2 カミキリムシの捕獲数(誘引トラップ:各5基,合計10基)

種 名	薬剤散布区	無散布区	計
マツノマダラカミキリ	48	24	72
クロカミキリ	1,192	921	2,113
その他のカミキリムシ	124	195	319
合 計	1,364	1,140	2,504